

高リスク企業は 2350 社 前年比 58 社増

8 割は「従業員 10 人未満」の企業
小規模企業の業況悪化に歯止めかからず

岡山県・「倒産リスク」分析調査(2025 年)



本件照会先

越久田 悟(支店長)
帝国データバンク
岡山支店
TEL:086-224-4681

発表日

2026/04/20

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

企業が 1 年以内に倒産する確率を 10 段階のグレードで表す指標「倒産予測値」(*)算出の岡山県企業 2 万 3584 社のうち、2025 年 12 月時点の高リスク企業(グレード 8~10)は、全体の 10.0%にあたる 2350 社となり、前年から 58 社増加した。従業員数別では「10 人未満」が約 8 割を占め、売上高別では、「1 億円未満」が 6 割を超えた。業種大分類別では、「製造業」が最多の 642 社で、前年比 59 社・10.1%増となった。

※倒産予測値とは

- 倒産予測値とは今後 1 年以内に倒産する確率を個別企業ごとに算出したリスク指標
- 現地現認の信用調査と、独自のネットワークによる変動情報などを集積した帝国データバンクが保有するビッグデータから、倒産に関係が深い要素だけに焦点を当て、独自の統計モデルにより算出
- 個別企業ごとに予測したリスク指標を G1~G10 の 10 段階のグレードに設定しており、G1 が最も倒産リスクが低く、G10 が最もリスクが高いグレードとなっていてグレードが高いほど実際に倒産が発生している

※高リスク企業

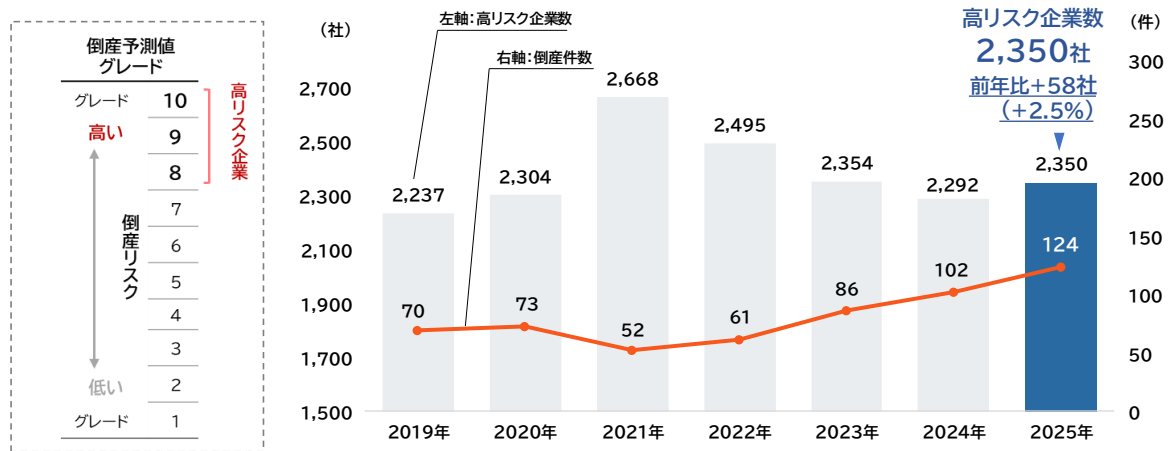
- 倒産予測値のグレードが 8~10 であり、倒産リスクが高い企業群

1. 高リスク企業は 2350 社、前年比 58 社増、4 年ぶりに増加

企業が1年以内に倒産する確率を10段階のグレードで表す指標「倒産予測値」をもとに、リスクが高い企業(グレード8~10)を「高リスク企業」ととらえ、分析したところ、岡山県の算出対象企業2万3584社のうち、2025年12月時点で高リスク企業数は2350社(構成比10.0%)となり、前回調査(2024年12月時点・2292社)から58社(2.5%)増加した。高リスク企業は、コロナ禍の2021年に急増し、コロナの沈静化・経済活動の再開とともに減少したものの、2025年は4年ぶりに増加した。

なお、岡山県の2025年における倒産(法的整理・負債1000万円以上)件数は124件で、4年連続で増加。企業倒産の先行指標ともいえる高リスク企業の増加は、倒産増加の可能性を予期させる。

倒産件数・高リスク企業推移



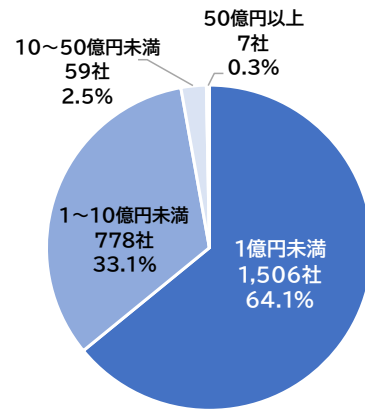
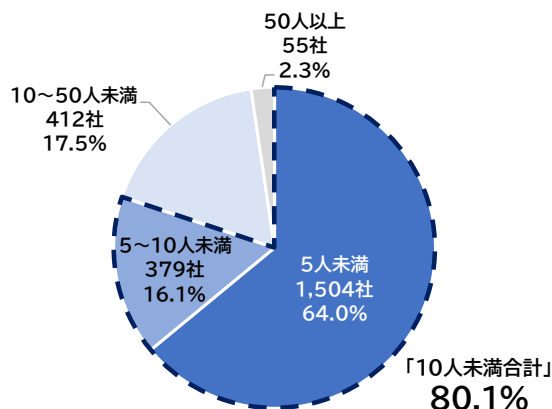
2. 従業員数別、「10人未満」が高リスク企業の約8割 売上高別、「1億円未満」が6割超

従業員数別にみると、「5人未満」が1504社(構成比64.0%)で最も多く、「5~10人未満」が379社(16.1%)で続き、2つを合わせた「10人未満」の企業が全体の80.1%を占めた。

売上高別にみると、「1億円未満」が1506社(構成比64.1%)で、6割を超えた。

(左図)従業員数別 高リスク企業数

(右図)売上高別 高リスク企業数



注:小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

3. 業種大分類別、「製造業」が 642 社で最多

業種大分類別でみると、高リスク企業数では、「製造業」が 642 社で最も多かった。次いで、「小売業」が 545 社、「建設業」が 538 社で続き、これら 3 業種が 500 社を超えた。前年(2024 年)と比べると、「建設業」「製造業」「小売業」「不動産業」の 4 業種が増加、「卸売業」「運輸・通信業」「サービス業」の 3 業種が減少、「その他」が横ばいとなった。特に、「運輸・通信業」の減少数(55 社減)は業種別で最も多かった。

一方、高リスク企業割合では、「運輸・通信業」が 24.1%で最も高かった。次いで、「製造業」(24.0%)、「小売業」(17.4%)、「卸売業」(13.0%)が続いた。

なお、2025 年の倒産件数の前年比は、「小売業」「サービス業」が大幅な増加となった。一方、「卸売業」「運輸・通信業」は約 4 割の減少となった。

業種大分類別 高リスク企業数・倒産件数

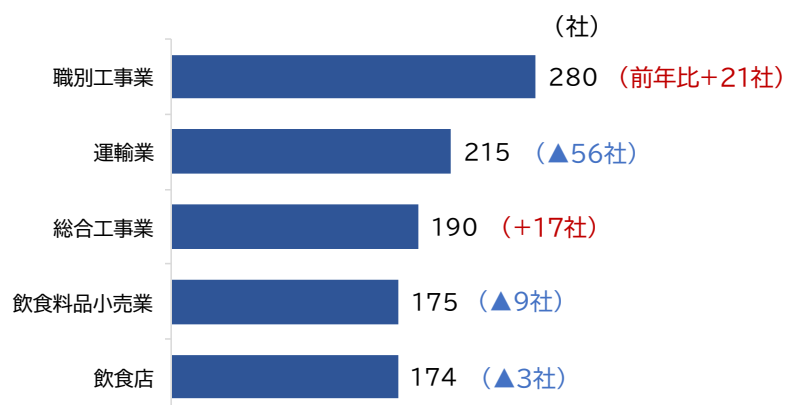
業種大分類	2024年 高リスク 企業数	高リスク 企業割合	合計	2025年 高リスク 企業数	高リスク 企業割合	合計	増減	前年比	倒産		
									2025年 倒産件数	構成比 (%)	前年比 (%)
建設業	491	7.3%	6,736	538	8.0%	6,742	47	9.6%	26	(21.0)	18.2
製造業	583	21.5%	2,710	642	24.0%	2,675	59	10.1%	20	(16.1)	5.3
卸売業	298	13.5%	2,200	281	13.0%	2,168	▲17	▲5.7%	10	(8.1)	▲41.2
小売業	523	16.6%	3,159	545	17.4%	3,125	22	4.2%	29	(23.4)	70.6
運輸・通信業	272	30.1%	904	217	24.1%	902	▲55	▲20.2%	8	(6.5)	▲38.5
サービス業	100	1.7%	5,733	98	1.7%	5,819	▲2	▲2.0%	20	(16.1)	66.7
不動産業	10	0.7%	1,445	14	0.9%	1,480	4	40.0%	5	(4.0)	—
その他	15	2.2%	667	15	2.2%	673	0	0.0%	6	(4.8)	200.0
合計	2,292	9.7%	23,554	2,350	10.0%	23,584	58	2.5%	124	(100.0)	21.6

4. 業種51分類別では「職別工事業」が280社で最多

業種 51 分類別でみると、高リスク企業数では、「職別工事業」が 280 社で最も多く、次いで、「運輸業」が 215 社、「総合工事業」が 190 社で続いた。なお、高リスク企業の増減数では、「職別工事業」(前年比 21 社増)が最も増加数が多く、「運輸業」(56 社減)は最も減少数が多かった。

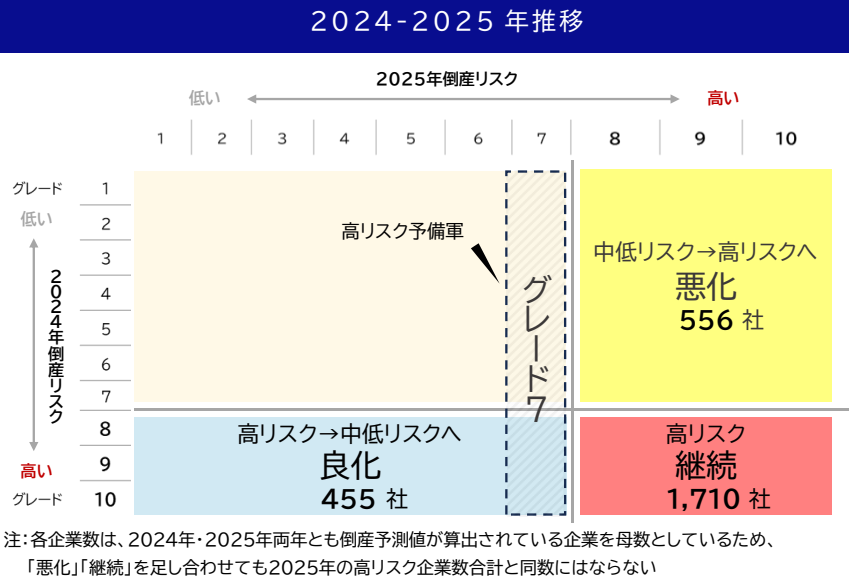
業種 51 分類別 高リスク企業数 TOP5

業種	(社)	
	高リスク	全体
職別工事業	280	2,843
運輸業	215	889
総合工事業	190	1,987
飲食料品小売業	175	394
飲食店	174	433



5. 高リスクへ悪化した企業は 556 社

2024 年から 2025 年の 1 年間のリスク分布変化をみると、「高リスクへ悪化した企業」は 556 社、「中低リスクへ良化した企業」は 455 社、「継続して高リスクの企業」は 1710 社あった。悪化企業が良化企業を 101 社上回り、全体では高リスク企業が増加した。



まとめ

2025 年はトランプ関税・円安・物価高・人手不足など厳しい経営環境が続き、企業業績はコロナ禍からの回復局面に水を差される格好となり、岡山県の高リスク企業は 2350 社、前年比 58 社増となった。そのなかで、従業員数「10 人未満」の企業が高リスク企業の約 8 割を占めており、小規模企業の外部環境の変化に対する耐性の弱さがあらためて浮き彫りとなった。

高リスク企業は、コロナ禍以降も政府の手厚い資金繰り支援により一定程度抑制されてきたが、コロナ借換保証(約 27.7 万件・約 7.1 兆円)は 2026 年 9 月までに返済のピークを迎える。加えて、海外では米・イスラエルによるイラン攻撃、それに対するイランの周辺国への報復によって、地政学リスクが一段と高まっている。これにより、近年続く原油高やエネルギーコスト上昇に加え、今回の軍事衝突による原材料調達の難航、物流の混乱などのリスクが重なり、事業への影響は国内外を問わず広範囲に及ぶ可能性がある。内部的に、収益管理やコスト体質といった経営基盤に弱さを抱える企業は、こうした外部環境の変化を吸収する余力が乏しく、資金繰りの悪化が避けられない。

また、中低リスク層の中で最もリスクの高いグレード 7 企業は 2000 社近く存在している。この層は、高リスクから回復途中にある企業と、かろうじて中低リスクに踏みとどまっている企業が混在しているため、高リスク層へ再転落する可能性を抱えた“境界層”として注視する必要がある。

不確実性が高まる経営環境においては、平時以上に市場や取引先の動向、需給の変化を丁寧に把握し、状況に応じて柔軟に舵を切れる体制が一段と重要になっている。持続的な成長を実現するためには、成長企業との関係強化に加え、事業再構築や M&A の活用、サプライチェーン再編など、内外の両面から経営基盤を強化していくことが不可欠である。こうした取り組みの巧拙が企業の明暗を分け、今後も企業間の二極化は進むと見込まれる。